

自己評価報告書（平成27年度）

平成28年3月31日現在

北海道エコ・動物自然専門学校

目 次

学校の概要	1	基準4 学修成果	1 1
自己点検・自己評価に対する姿勢	3	基準5 学生支援	1 2
学校関係者評価委員会の構成と意義	4	基準6 教育環境	1 3
教育理念	5	基準7 学生の募集と受入れ	1 4
学校の目標（今後5年間）	6	基準8 財 務	1 5
平成27年度の重点目標	7	基準9 法令等の遵守	1 6
基準1 教育理念・目的・育成人材像	8	基準10 社会貢献・地域貢献	1 7
基準2 学校運営	9	平成27年度重点目標達成についての自己評価	1 8
基準3 教育活動	1 0	平成28年度の重点目標	1 9

学校の概要

1. 学校の設置者

北海道エコ・動物自然専門学校は学校法人産業技術学園が設置する。学校法人産業技術学園は共通の理念のもとに専門学校を全国に運営する滋慶学園グループの構成法人である。

2. 開校の目的

エコロジカル（自然や環境との調和）をコンセプトに、人と自然と動物の共生をテーマに動物自然学科・動物看護師学科・ペット学科3学科で、飼育員・自然ガイド・環境調査員・動物看護師・ドッグトレーナー・ペットトリマー等を「動物とともに学ぶ」教育環境で人材育成をすることで、人と自然と動物の懸け橋なる人材を育成し、職業人教育を通じて社会に貢献する。

3. 校長名、所在地、連絡先

学校長 佐藤 俊

所在地 北海道恵庭市恵み野北西5丁目10-4 連絡先 0123-36-2311

学校の概要

4. 学校の沿革、歴史

- 平成10年 9月 北海道エコ・コミュニケーション専門学校設置を北海道知事に申請
11月 北海道知事により認可（学事第594号）
- 平成15年 4月 北海道エコ・コミュニケーション専門学校を開校 ペットビジネス学科を北海道ハイテクノロジー専門学校から独立・移管しアウトドア学科を開設。
12月 動物実習施設「エコ動物学園」落成
- 平成18年 4月 アウトドア学科を観光サービス学科へ改称 ペットビジネス専攻科を開設 12月 インドアスタジアム竣工
- 平成20年 4月 日本語学科を開設
- 平成21年 3月 HES（北海道環境マネジメントシステムスタンダード）認証HES：0029
- 平成22年 10月 第2日本語学科を開設 12月 ハイテクアリーナ竣工
- 平成23年 4月 ペットビジネス学科をペット学科、動物看護学科、動物自然学科へ改称
- 平成24年 4月 北海道エコ・コミュニケーション専門学校を北海道エコ・動物自然専門学校へ改称 日本語学科を北海道ハイテクノロジー専門学校へ移行 ペットビジネス専攻科廃科 観光サービス学科廃科
- 平成26年 3月 職業実践専門課程に動物自然学科・動物看護師学科・ペット学科が認定
- 平成26年 4月 恵庭市恵み野こどもの集う場所「フーレめぐみの」の指定管理を学校法人産業技術学園が受託しオープン
- 平成26年 7月 動物自然学科 定員増 40名⇒80名へ変更
- 平成26年 7月 傷病鳥獣保護収容事業協力者登録
- 平成27年 4月 専門実践教育訓練講座 動物看護師学科、ペット学科ペットトリマーコースが厚生労働大臣の指定を受けスタート
- 平成27年 4月 動物看護師学科 動物病院シミュレーション室 新設
- 平成27年 6月 野生鳥獣リハビリ施設 新設

自己点検・自己評価に対する姿勢

本校は、一人ひとりが目標を達成できるよう、職業人教育の正しい目標設定と目標に到達させるシステムの開発に取り組んでいる。

実践的な職業人教育を目的とした自らの教育活動、学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について自ら評価、公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図って行っている。

また、学校関係者評価委員会を組織し、自己評価の結果に基づいて行なう学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明をおこない、適切に説明責任を果たすとともに、学校関係者等からの理解と参画を得て、地域における関係者と学校との連携強化を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努める。

※ 教育システムを「養成目的と教育目標」（養成目的はその学科の社会的ニーズ、教育目標は卒業時到達目標）、「目標達成プロセス」（カリキュラム、学年暦、時間割、シラバス）、「目標達成素材」（教科書、教材、教育技法）、「目標達成支援人材」（担任、専任講師、非常勤講師）、「評価基準」（透明性、公平性、競争性）の5要素で考えている。

学校関係者評価委員会の構成と意義

自己点検・自己評価を行なうにあたり、学校関係者評価委員会を組織する。評価委員会を組織することによって、学校の教育活動そのものの質の向上、学校運営の改善・強化を推進する。

評価委員は学生保護者、卒業生、関係業界、高等学校、地域住民、自治体関係部局などの関係者で構成し、自己評価の結果に基づいて行なう学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明を行い、学校関係者等からの理解と参画を得て、意見・評価を頂いている。

学校関係者評価委員会を活用し、学校の現状について適切に説明責任を果たすとともに、地域における関係者と学校との連携強化を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努めていく。

教育理念

北海道エコ・動物自然専門学校は、職業教育を行う高等教育機関として、職業人教育を通じて社会に貢献するミッションを持ち、3つの建学の理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」を通じ業界に直結した職業人の育成をするとともに、4つの信頼「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」を得ることを目指している。

本校は、365日「動物とともに学ぶ」学校。動物と一緒に過ごす時間こそ学生の最大価値と考え、「人と動物がともに生きる社会を実現できる」人材を養成する。

※建学の理念

①実学教育

スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識・技術（テクニカルスキル）を身につける。

一人ひとりの個性を最大限に活かし、それぞれの業界で力が発揮でき、人に感動を与え、ビジネスマインドに富んだ「仕事ができる人材」を各業界との連携のもと養成を行う。これらを具現化するために授業システムも、見て（LOOK）、体験して（TRY）、聴いて（LISTEN）、考える（THINK）というプロセスで学習する「体験学習」に重点をおいたLT2教育システムの実践や国家試験対策等、専門職として業務の遂行に必要な資格は確実に合格するよう万全の指導を行っている。

②人間教育

プロとしての身構え、気構え、心構えを持ち、他人への思いやりの気持ちを持った職業人を養成する。

また、専門職として仕事をする上で、常にサービスとケアを怠らず、細やかな対応ができるとともに、コミュニケーション力を持った人材育成を目指す。いかに技術的に優れていても人間性に欠けていたら信頼される職業人にはなれない。学校生活のなかで、いかに人間力を高める教育を行い、コミュニケーション能力やリーダーシップがとれる対人スキル（ヒューマンスキル）を会得し同時にたくましさも身につけていくことが目標である。そのため、本校は開学以来『今日も笑顔で挨拶を』を標語として掲げ、あいさつを習慣にする指導にとりくむ他、産学協同イベントや卒業制作・卒業研究・ボランティア活動として行っている。

③国際教育

在学中からコミュニケーション言語としての英語、および専門英語を身につけるばかりでなく、より広い視野でモノを捉える国際的な感性を養う。

『自分を愛することの出来ない人に、他人を愛することは出来ない』をモットーに、日本人としてのアイデンティティを確立したうえで、価値観や文化の違いを尊重できるよう導く。

そのため在学中は、海外の学校との交流をベースに海外研修・海外インターンシップ・海外留学等の制度を活かし、それぞれの分野で先進的な取り組みをしている世界標準を学び、グローバルな視点とプロとして仕事をする心構えを育成する。グループワークを通して成長できる様教育を実践する。

学校の目標（今後5年間）

5カ年の目標

1. 中途退学率を平成30年度までに0%を目指す。
2. 専門就職率を平成30年度までに100%を目指す。
3. 離職率 平成31年度までに0名を目指す。
4. 学生募集 業界・地域・受験生ニーズに応える学科構成で全学科の定員を満たす。

目標の意図

目標：北海道エコ・動物自然専門学校は、職業人教育を通じて社会に貢献するというミッションを持ち、【動物とともに学ぶ】コンセプトの施設・設備で動物と人との間をつなぐ人材を育成する。

意図：体験を通じた学習で「人と自然と動物がともに生きる社会を実現できる」人材育成を目指している。

目標を達成するための方策

1. 教育力の向上（FDC活動の強化）

学生一人ひとりが目標をクリアする力を身につけるための、授業力教授力の向上を図ります。講師の研修会の実施、新任講師のOJT研修、コマシラバス、小テストをはじめとする教育システムの向上を図る。

2. 高い水準で要件を備えた教員確保

業界で経験を積んだ卒業生の教員採用や、専任教員と第一線で活躍する講師との交流で常に高い水準で要件を備えた教員確保に努める。

3. 業界との連携と業界ニーズに合ったカリキュラムの構築

業界との連携を通じ、業界の求める人材像を把握し、学科の教育内容との差異を調査している。業界ニーズに確実に応えられる教育目標、育成人材像を設定する。

平成 27 年度の重点目標

1. 学科のイノベーション
2. 地域と連携したプログラムの構築
3. 企業と連携を強化し、より業界ニーズに合ったカリキュラムの構築
4. 会議、研修を学習の機会とし、スタッフひとり一人が成長する
5. 自己点検、第三者評価に真摯に取り組む

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 建学の理念・目的について 職業人教育を通じて社会に貢献するというミッションを持ち、業界に直結した実践的な職業人の育成をしている。【動物とともに学ぶ】教育環境で、「動物と人との間をつなぐ人材を育成する」ことを目的とした学校運営に努めている。</p> <p>2. 育成人材像について プロとしての身構え、気構え、心構えを持ち、他人への思いやりの気持ちを持った職業人の育成に努めている。</p> <p>3. 特色について 「動物とともに学ぶ」をコンセプトに、犬・猫を始め 95 種 200 頭羽の哺乳類・魚類・両性爬虫類など様々な動物との体験を通して、365 日学習できる環境を提供している。</p> <p>課題</p> <p>1. 多くの卒業生がいる中で、理想の先輩像の見える化が不足している。</p> <p>2. 教育のソフト面で改革が必要である。</p>	<p>課題</p> <p>1. 多くの卒業生がいる中で、理想の先輩像の見える化が不足している。 ⇒継続して卒業生 100 人を取材し、業界で輝く先輩を見える化する。</p> <p>2. 教育のソフト面で改革が必要である。 ⇒現在、点として存在している教育コンテンツをまとめ「きずなシステム」教育として表現し、システム化する。</p>	<p>・飼育を学習する専門学校の多くが細かいカテゴリーズの中で学習しているが、本校は哺乳類・両性爬虫類・魚類・鳥類・大型哺乳類というカテゴリーの動物を「飼育」と言う視点で同時に学習することができる。</p> <p>・犬・猫をはじめ、自分で飼育している動物をパートナーとして授業に参加、登校することができる。</p> <p>・「きずなシステム」教育の表現方法の一つとして、プレスリリースを実施。4月～12月までに、11回の各社新聞掲載があった。</p>

最終更新日付

2016 年 3 月 31 日

記載責任者

三鍋 良平

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校運営・事業計画について 全教職員が納得して学校運営に携わる環境づくりにより、学校・学科の教育成果向上と常に市場ニーズに対応した運営方針・事業計画を作成している。 2. 組織運営について 学校の事業計画は毎年 3 月初旬に研修を行い、全教職員へ周知徹底している。 3. 意思決定システム・情報の一元化について 運営方針の実現のための学校運営会議、リーダー会議や学校全体会議及び学科会議、部署会議を通じて、問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し実行している。 <p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程編成委員との更なる連携が必要。 2. イノベーションの機会としての会議に成長する必要がある。 	<p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 継続して、学校関係者評価委員・教育課程編成委員との更なる連携が必要。 ⇒教育の2年間のゴールを明確にし、実習設備・学習内容の質の向上を図る。 2. イノベーションの機会としての会議に成長する必要がある。 ⇒教員一人ひとりが企画を提案できる会議に成長する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針の実現のため、学校運営会議、リーダー会議や学校全体会議及び学科会議、部署会議を通じて、問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し実行している。 ・今年度も、動物看護師統一試験策定委員会に本校教員が北海道ブロック代表として参加。試験作成や教材作成に関わっている。

最終更新日付

2016年3月31日

記載責任者

三鍋 良平

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 教育目標・教育課程について 業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められている。また、評価については、学生便覧細則に明示しており、かつ進級卒業判定会議において学則、細則に定める教務規定に則り適正に評価している。</p> <p>2. 資格取得の指導体制について 一人ひとりについての技能や知識の到達レベルを確認し、学習成果が充分でない学生には、学習サポートセンターによる個別指導などによる補講体制をとっている。</p> <p>3. 教員・教員組織について 教育資格ならびに資質強化のため、各種研修(国家試験対策研修、教育学会、マネジメント研修、カウンセリング研修など)を充実させ教員のスキル・マインドの強化を図っている。</p> <p>課題</p> <p>1. 教育課程編成委員会の改善要件を実施する。 2. 長期欠席者の対策が必要である。 3. 特色を活かした教育プログラムの構築が必要である。</p>	<p>課題</p> <p>1. 教育課程編成委員会の改善要件を実施する。 ⇒教育課程編成委員と業界講師等から情報収集を行い、学則変更が伴うものに関しては、理事会時期に合わせ改善し、更なる教育向上を図る。</p> <p>2. 長期欠席者の対策が必要である。 ⇒長期欠席になる事前段階を押さえ、長期欠席そのものを防止する。担任、カウンセラーとの連携を強化する。</p> <p>3. 動物とともに学ぶ教育システム「きずなシステム」のプログラムを完成する。</p>	<p>・継続して、中途退学0を目標に、担任による春の学生面談、夏休み前の保護者面談、教職員すべてが一人ひとりを大切にする教育を目指している。今年度は、キャリアセンターとの連携により、退学者数を減少させることが出来た。</p> <p>・重点目標の一つである地域と連携したプログラム構築の一つが、平成26年7月に認可された。野生鳥獣の保護プログラムである。今年度は、恵庭市を中心に、11羽の保護鳥が搬送され、7羽が自然復帰された。現在も専門学校として認可されたのは、本校が初である。</p> <p>・教育課程編成委員会等で協議し、平成27年6月に野生鳥獣リハビリ施設を整備。猛禽類のリハビリも対応可能になった。</p> <p>・教育課程編成委員会の提案により、平成27年4月に動物病院シミュレーションを整備。衛生面の管理徹底を学習できる環境とレントゲン室を整備した。学内動物から保護鳥獣までの受け入れを可能にした。</p> <p>・重点目標である地域と連携したプログラム「きずなシステム」の社会的表現はプレスリリースを通してきた。</p>

最終更新日付	2016年3月31日	記載責任者	三鍋 良平
--------	------------	-------	-------

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 就職率について 事業計画において就職関係の数値目標を設定し、就職活動にあたっている。多職種の業界が対象になることからひとり一人の就職希望状況を把握し第1専門分野の就職率を高める努力を行っている。 結果 就職内定者率98.2% (107名内定者数/109名就職希望者数) 第1専門内定者率 90.7% (109名第1専門内定者数/97名就職内定者数)</p> <p>2. 資格合格率について 早期より資格取得のための講座の受講や資格試験対策についての支援を行い、指導方法についても検証し、改善を図っている。</p> <p>3. 卒業後の成果について 開校から17年が経ち、卒業生の中には独立・組織運営マネジメントを担う人材も多くなっている。</p> <p>課題</p> <p>1. 内定が2月100%になっていないことが、卒業式以降の就職活動を行っている原因となっている。</p> <p>2. 今年度は、動物看護師統一認定試験において前年以上に高い合格率で結果を残したが、放課後の学習時間が膨大である等、学生・職員の学校拘束時間が長いのが課題である。</p> <p>3. 多くの卒業生がいる中で、理想の先輩像の見える化が不足している。</p>	<p>課題</p> <p>1. 内定が2月100%になっていないことが、卒業式以降の就職活動を行っている原因となっている。 ⇒学内企業説明会や企業講和を積極的に実施し、就職活動への意識付けを強化する。</p> <p>2. 今年度は、動物看護師統一認定試験において残念ながら全員合格できなかった。昨年の課題であった放課後の学習時間が膨大である等、調整は行ったが、結果を出すことが出来なかった。効率の良い学習方法の設計が必要である。 ⇒再度、早期試験対策のスケジュール化と今後e-learningの構築を模索する。</p> <p>3. 多くの卒業生がいる中で、理想の先輩像の見える化が不足している。 ⇒卒業生100人を取材し、業界で輝く先輩を見える化する。</p>	<p>・2015年度動物看護師統一認定試験に20名合格。</p> <p>・愛玩動物飼養管理士試験2級に、70名合格し、そのうち台湾からの留学生2名も合格することが出来た。</p> <p>・一般社団法人 ジャパンケネルクラブ(JKC) - 災害救助犬に1年生が合格した。(参加者10名中3名の合格者の一人となった。)</p>

最終更新日付

2016年3月31日

記載責任者

三鍋 良平

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 就職支援について 就職はキャリアセンターを中心に業界との連携のもと教職員一丸となって支援にあたっている。企業合同説明会、東京姉妹校合同企業説明会への参加等により就職の支援体制を行っている。</p> <p>2. 資格支援について 早期より資格取得のための講座の受講や資格試験対策についての支援を行い、指導方法についても検証し改善を図っている。</p> <p>3. 卒後支援について 学校全体としての同窓会を組織している。卒業生の再就職希望者に対してキャリアセンターが支援している。</p> <p>課題</p> <p>1. 学内での企業説明会開催が必要である。</p> <p>2. 資格試験合格までの学習時間の管理が必要である。</p> <p>3. 学科単独の同窓会運用が課題である。</p>	<p>課題</p> <p>1. 学内での企業説明会開催が必要である。 ⇒すべての学生に就職の情報提供のチャンスはあるが、東京姉妹校への企業説明会はまだ全員参加に至っていない。今後、学内での企業説明会・講話も同時展開する必要がある。</p> <p>2. 資格試験合格までの学習時間の管理が必要である。 ⇒冬休み明けから資格・公務員試験直前まで、補講時間が遅くなるケースがあるが、今後年間スケジュールを再考し、健康管理も含めた時間管理が必要である。</p> <p>3. 学科単独の同窓会運用が課題である。 ⇒2年に一度の同窓会の他に、各学科の卒業生がスキル向上の為の学習チャンスとなる同窓会が必要である。</p>	<p>・スケールメリットを活かした資格・公務員試験対策を行った。これにより、公立動物園・水族館、民間動物園への就職内定を実現した。</p> <p>・キャリアセンターと学科が連携をし、学生への就職不安を改善することが出来た。成果として、退学者減少及び就職内定が好調であった。</p> <p>・資格支援に関しても、動物看護師、愛玩動物飼養管理士2級ともに全員合格に限りなく近い状況にあり、資格試験合格までの学習時間の調整が最終段階にきている。</p> <p>・同窓会の役員会は、開催されている。平成28年度秋にある総会及び同窓会に受けて動き出している。今後、役員会でも学科単独の同窓会運用を協議していく。</p>

最終更新日付

2016年3月31日

記載責任者

三鍋 良平

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 施設設備等について 文部科学省の規定する施設・設備・機器等は法令に準拠しており、職業人教育を実践する上での整備は出来ている。</p> <p>2. 学内実習・インターンシップについて 学外実習については、50カ所におよぶ連携する企業等において実践的な実習を実施している。実習における成績評価は、実習の指導担当者によりその技能のレベルや人間力について評価している。</p> <p>3. 防火・安全管理について 避難訓練は、年1回。災害時の安否確認システムを有し訓練を行っている。防災の意識を高めている。</p> <p>課題</p> <p>1. 老朽化施設の更新や教育課程編成委員会での指摘事項の改善が課題である。</p> <p>2. 更なる新規実習先の開拓が必要である。</p> <p>3. 安否確認システムの返信率が100%ではないのが課題である。</p>	<p>課題</p> <p>1. 老朽化施設の更新や教育課程編成委員会での指摘事項の改善が課題である。 ⇒財務基盤の安定を図り、優先順位の高いものから改修を計画し学習環境整える。</p> <p>2. 新規実習先の開拓が必要である。 ⇒本州を中心に動物自然学科に関わる実習先の開拓が急務であり、今後求人の開拓に結び付ける必要がある。</p> <p>3. 安否確認システムの返信率が100%になっていないのが課題である。 ⇒通信制限を保護者制限で設定している場合も多くあるため、保護者へのインフォメーションが必要である。</p>	<p>・教育課程編成委員会等で協議し、平成27年6月に野生鳥獣リハビリ施設を整備。猛禽類のリハビリも対応可能になった。</p> <p>・教育課程編成委員会の提案により、平成27年4月に動物病院シミュレーションを整備。衛生面の管理徹底を学習できる環境とレントゲン室を整備した。学内動物から保護鳥獣までの受け入れを可能にした。</p> <p>・キャリアセンターと学科が連携をし、学生への就職不安を改善することが出来た。これにより、本州を中心に新規実習先開拓や受け入れの整備をおこなうことができた。</p>

最終更新日付	2016年3月31日	記載責任者	三鍋 良平
--------	------------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 学生の募集について 入学に関しては北専各連の定めたルールに基づいた募集開始時期を遵守し、過大な広告はせず、根拠数字を記載するなど、適正に募集をするよう配慮している。</p> <p>2. 入学選考について 入学選考は募集要項、入学試験規定を定めこれを運用しており、合否についても公平、厳正に行っている。</p> <p>課題</p> <p>1. 学校、学科における特徴的教育の見える化が課題である。</p> <p>2. 遠方地域受験者に対するサポートが課題である。</p> <p>3. 募集要項の改善が必要である。</p>	<p>課題</p> <p>1. 学校、学科における特徴的教育の見える化が課題である。 ⇒Webを活用し、発信力を強化する。</p> <p>2. 遠方地域受験者に対するサポートが課題である。 ⇒平成28年度より道南、道東地域においての出張AO面談、説明会の開催予定。</p> <p>3. 募集要項の改善が必要である。 ⇒学費記載の改善、出願までの流れをフローチャート化し改善した。</p>	<p>・早期入学内定者に対しては、e-learning等を活用した教育コンテンツを提供し学習の機会をつくっている。</p> <p>・「きずなシステム」教育のプレスリリースを実施。見えるか化を試みた。</p>

最終更新日付

2016年3月31日

記載責任者

三鍋 良平

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 財務基盤について キャッシュフローの経営を重視し、収支と支出のバランスはとれており繰越収入超過金はない。</p> <p>2. 予算・収支計画について 各学科での予算作成と予算執行が、Web 上で行えるシステムにより見える化の徹底と管理ができており、より健全な学校運営ができるよう財務基盤を安定させる仕組みが確立している。</p> <p>3. 財務情報の公開について 平成 25 年度より毎年自校ホームページにて公開済みである。</p> <p>課題</p> <p>1. 部署予算管理をシステムだけに頼らずダブルチェックをできる体制が必要である。</p>	<p>課題</p> <p>1. 部署予算管理をシステムだけに頼らず、顔の見える関係を構築し、口頭確認のダブルチェックをできる体制が必要である。 ⇒継続して、事務局が月末に全学科の予算・収支計画のチェック状況を学科長と共有し、状況を把握する。</p>	<p>中長期的事業計画を立て、その中で収支計画を作成している。事業計画(財務計画)を作成し四半期ごとの収支実績の把握、及び修正予算の作成を行い監事及び公認会計士による監査を行っている。</p>

最終更新日付	2016 年 3 月 31 日	記載責任者	三鍋 良平
--------	-----------------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 関係法令・設置基準等の遵守について 書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓が出来ており、財務情報公開の体制整備も出来ている。</p> <p>2. 個人情報保護について 平成17年4月1日に個人情報保護の体制は完了しており、教職員への啓蒙のための研修制度やその運営体制の整備に力を入れている。「TRUST-e」より国際規格の認証を獲得している。</p> <p>3. 学校評価について 私立専門学校等学校評価検討委員会の基準を元に、現在まで実施していた自己点検・自己評価についての方針、実施を見直し、委員会を組織し運営を行った。</p> <p>課題</p> <p>1. 職員への周知が必要である。</p> <p>2. 職員一人ひとりに研修が必要である。</p> <p>3. 公開書類が難解で、分かりやすくする必要がある。</p>	<p>課題</p> <p>1. 職員への周知が必要である。 ⇒継続して、全体会を通じて、現時点の進捗状況の報告や学習会を開催する。</p> <p>2. 職員一人ひとりに研修が必要である。 ⇒継続して、全員参加の研修会を実施する。</p> <p>3. 公開書類が難解で、分かりやすくする必要がある。 ⇒継続して、Web 等でできる限り明確に表現できるように整備を行う必要がある。</p>	<p>ホームページ上でも財務状況、教育課程を含む運営状況について情報公開を行っている。</p>

最終更新日付

2016年3月31日

記載責任者

三鍋 良平

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 社会貢献・地域貢献について 授業の一環で地域のごみ清掃や募金活動、交通安全週間における協力等自治体に関連した活動や課外活動の一環として実施している。</p> <p>2. ボランティア活動について イベントの補助要員やボランティア要員としての協力を行っている。また、胆振・江別・札幌動物愛護フェスティバル、恵庭市と連携しペットマナー教室の開催など積極的に参加、企画運営することで、動物と社会をつなぐ活動も学生とともに実施している。</p> <p>課題</p> <p>1. 町内会・地元商店会との連携が必要である。</p> <p>2. まだ、一部の学生の参加に留まっている。</p>	<p>課題</p> <p>1. 町内会・地元商店会との連携が必要である。 ⇒継続して、今後恵み野西町内会の回覧板への情報発信や恵み野商店会とのイベントの連携等積極的に進めていく必要がある。</p> <p>2. まだ、一部の学生の参加に留まっている。 ⇒継続して、社会貢献活動として、全学生が参加できるイベントの企画が必要である。</p>	<p>卒業生と連携し、在校生が主体となり、恵庭市役所と共催でペットのマナー教室を2日間実施した。昨年は、1日間の開催だったが、アンケート等の集約により地元住民のニーズを分析し改善した。次年度は、学生が運営を担い、卒業生と連携し開催する。</p> <p>平成 28 年 2 月 恵庭市と地方創生に向けた協力体制強化のため、「包括連携協定」を締結した。</p>

最終更新日付	2016年3月31日	記載責任者	三鍋 良平
--------	------------	-------	-------

平成 27 年度重点目標達成についての自己評価

北海道エコ・動物自然専門学校 事務局次長 三鍋 良平

平成 27 年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1. 学科のイノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物看護師資格高度標準化に合わせ、2年間で1700時間から2400時間、5年後の国家資格化に向けカリキュラムの標準化に対応する。 90種200頭羽の飼育動物がいる学校環境を活かし、放課後活動の中で動物看護師学科と動物自然学科が相互に連携し、動物医療と動物飼育の両方を学べる環境を整備する。 <p>2. 地域と連携したプログラムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年8月に、日本で唯一、野生鳥獣の保護を都道府県と連携し行うことのできるプログラムを構築する。このプログラムは、放課後活動の一環として行い、都道府県が捕獲した傷病鳥獣を受け入れ、治療補助・リハビリ・野生放鳥までの一連の流れを体験学習するものである。 学校周辺の動物飼育施設との連携を図り、より実践的な業界実習を行う。 <p>3. 企業と連携を強化し、より業界ニーズに合ったカリキュラムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業実践専門課程の協力を頂いている企業を中心に、実習現場スタッフや経営スタッフと意見交換し、業界ニーズにあった内容の教育カリキュラムを構築する。これにより、就職までを見据えた実習展開が可能になる。 <p>4. 会議、研修を学習の機会とし、スタッフひとり一人が成長する</p> <ul style="list-style-type: none"> 「予習」型会議の実施 議題と資料の事前配信を徹底する。 スタッフ一人ひとりの「問う力（自問）」の向上を図る。 問いに対して深く考えていく「探求力（自答）」の向上を図る。 <p>5. 自己点検、第三者評価に真摯に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価委員会、教育編成委員会を組織し自己点検の質の向上に努める。 	<p>1. について</p> <ul style="list-style-type: none"> 二学年ともに動物看護師資格高度標準化に対応した。講師等も卒業生の現役看護師に協力頂き、体制は整った。 1頭の問題を抱えた学校犬に関して、調教・飼育の両面で意見交換を行い、飼育方針を立て、問題行動の改善を進めることができた。 <p>2. について</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内専門学校で始めて、野生鳥獣保護施設の指定を受け、野生鳥獣リハビリゲージを設置した。（恵庭市を中心に、9羽の受け入れを行い7羽の放鳥を実施した） 動物看護師学科は犬を中心としたシェルター（しっぽの会）と連携し、飼育実習を実施した。 ペット学科はトリマーコースでモデル犬登録によるトリミングを実施、恵庭市の委託を受けてペットマナー教室を実施した。 <p>3. について</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営スタッフとの教育カリキュラムに関する検討はできている。 <p>4. について</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部研修や会議、業界訪問を積極的に行い、成長の機会を作る事ができた。 <p>5. について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価委員会、教育編成委員会を実施し自己点検の質の向上を行っている。 	<p>今後、業界のニーズと学生の学力に合わせた教育内容と授業の進め方を構築し、資格試験全員合格を達成する。</p> <p>今後、犬だけでなくエキゾチックアニマルの健康管理を含め、学生間での意見交換や環境改善をできる仕組みづくりを行う。</p> <p>今後、恵庭市以外の千歳市・北広島市とも連携し受け入れの拡大を各行政機関と連携し行う。</p> <p>今後、天売島の猫問題などにも協力し、民間シェルターや環境省とも連携を行う。</p> <p>今後、キャリアセンターとも連携し、就職を見据えたカリキュラムの構築を行う。</p> <p>今後、予習型会議の徹底を中心に効率の良い会議を実施する。</p> <p>今後、予定通り実施できていない教育課程編成委員会に関しては関係機関と綿密に調整し、実施する。</p>

平成 28 年度の重点目標

1. 「動物とともに学ぶ」教育システムの構築
(プログラムの完成)
2. 学科イノベーションによる新学科を開発する。
北海道に根差した人材養成と地域創生を推進する
学科づくりを行う。